

No. 1061

春の園遊会

天皇 皇后 両陛下主催の春の園遊会が5月10日、東京・赤坂御苑で開かれました。新緑が目にしみる会場には各界の功労者や地方自治体関係者ら1626人が出席。

両陛下は皇太子ご夫妻ら皇族方の先頭に立ち、約1時間、出席者と歓談されました。日航の増子機長に「ハイジャック事件の時は苦勞したことと思います」とねぎらいのお言葉をかけられる天皇陛下。しかし伊豆半島沖地震の発生に陛下の表情はいまひとつさえず、いつもの園遊会で見られる、こぼれるような笑顔は最後まで見られずじまいでした。

激震の災禍

— 南伊豆地震 —

8.497

5月9日、午前8時半過ぎ伊豆半島沖合でマグニチュード6.8を記録する地震が発生、震源地に最も近い伊豆半島南端の各部落は壊滅的な被害を受けた。道路はズタズタに引き裂かれ、石廊崎灯台の展望台も土台からくずれ、地震の強さをみせつける。

中でも南伊豆町中木地区では、通称「城畑山」が高さ150m幅60mにわたり、土砂がくづれおち、50戸が呑み込まれ16戸が完全に埋没、27人が行方不明更に倒れた家から出火するという惨事にみまわれた。

静岡県は直ちに災害救助法を適用、自衛隊、警察、地元消防団の応援を求め、救出作業にあたった。

しかし、降りしきる雨と土砂にまじる岩、土の下から上る白煙にはばまれ、作業は難行、ブルドーザーなどの機械力を導入し、夜間に入ってからのはじめて救出作業は本格的にすすめられた。

予震の続く中、難をのがれた人々が次々に避難をしていく。深夜に入って泥の下からようやく1人の遺体を発見安否をきずかう肉親の悲しみの声に包まれた。

その後、遺体は発見されず朝を迎えた。城畑山の生々しい土砂くずれの跡、つぶされた家や焼けた家などが姿を顯わした。駆けつける肉親の見守る中懸命につづけられる遺体発掘作業。一人の婦人が花束をもってかってあった自分の家あたりの土砂の上にそっと置き手を合わせる。

「あっと言う間だった。畑に行行って助かったが……こんなことになるなんて……」あとは言葉にならない今も主人が埋まったままだという。

近くの入間地区は約74戸の民家がほとんど全壊に近い状態だ。屋根瓦が全部落ち、ブロックの壁は倒れ見る影もない。時間をおいて、発見される遺体。誰れだろうとお互いに話し合う遺族。あちこちでうずくまるように泣く肉親。規模としては決して大きくない地震だという。しかし被害はあまりにも大きすぎた。平和な民宿の村を地獄に変えた南伊豆地震。一週間近い日が過ぎた今なお4人の遺体は発見されていない。